Course number	U-LAS01 10001 LJ38				
Course title (and course title in English)	日本史Ⅰ Japanese History I		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Human and Environmental Studies Professor,YOSHIE TAKASHI	
Group	Humanities and Social Sciences	Field(Classification)	History and Civilization(Foundations)		
Language of instruction	Japanese	Old group	Group A	Number of credits	2
Number of weekly time blocks	1	Class style	Lecture (Face-to-face course)	Year/semesters	2026・First semester
Days and periods	Mon.2/Mon.3	Target year	All students	Eligible students	For all majors

[Overview and purpose of the course]

【日本古代の国家と政治－律令国家への道程－】
日本における古代国家の様相を政治史という側面から把握し、古代日本の特質について理解することを目的とする。今期は、律令国家が形作られていく６世紀末から７世紀後葉にかけての政治動向を取り上げ、先行学説を紹介するとともに批判的に検証を行う。こうした作業を通じて、国家の様相やその変遷を客観的に捉える視座を養うことを目指す。

[Course objectives]

日本古代史における正確で幅広い知識を獲得するとともに、これまでの研究の流れを自分の力で整理し、それらを客観的・批判的に把握して、自らの歴史像を組み立てるための技術を習得する。

[Course schedule and contents)]

７世紀後葉に成立した日本の律令国家は、唐から導入した律令制を基盤に置いた国家だった。先進的な制度・技術・文化を輸入した一方で、古墳時代以来の古来の伝統が色濃く残っていたことも見逃すわけにはいかず、先進性と未開性が交錯するところに、日本の律令国家が登場したといえる。今期は、そうした日本の特質を把握することを目的に、律令国家の形成過程について順を追って概観する。まずは推古天皇の時代の政治改革を整理し、天皇による支配体制の構築について検討する。次いで、大化改新の歴史的位置を確認するとともに、東アジアの動乱や皇位継承の争いが律令国家の形成に与えた影響について考察する。最後に、律令法の整備過程を法体系の受容・改変という点に着目しながら紹介し、日本の律令国家の特質を把握することにつとめる。

第１回　イントロダクション－古代国家と古墳時代－
第２回　推古天皇の時代（１）
第３回　推古天皇の時代（２）
第４回　天皇号の成立（１）
第５回　天皇号の成立（２）
第６回　大化改新の歴史的位置（１）
第７回　大化改新の歴史的位置（２）
第８回　東アジアの動乱と防衛体制の構築（１）
第９回　東アジアの動乱と防衛体制の構築（２）
第１０回　皇位継承争いとしての壬申の乱（１）
第１１回　皇位継承争いとしての壬申の乱（２）
第１２回　律令法の整備過程（１）
第１３回　律令法の整備過程（２）

Continue to 日本史Ⅰ(2)↓↓↓

日本史Ⅰ(2)

第１４回　総　括
《期末試験》
第１５回　フィードバック

[Course requirements]

None

[Evaluation methods and policy]

期末試験（筆記）にて成績評価する。

[Textbooks]

Not used
授業中にプリントを配布する。

[References, etc.]

（References, etc.）
Introduced during class

[Study outside of class (preparation and review)]

シラバスなどを通じて授業の進行を確認し、各回の授業内容を想定しながら予習をすること。

[Other information (office hours, etc.)]

授業は講義形式で行う。

[Essential courses]

Faculty of Integrated Human Studies